

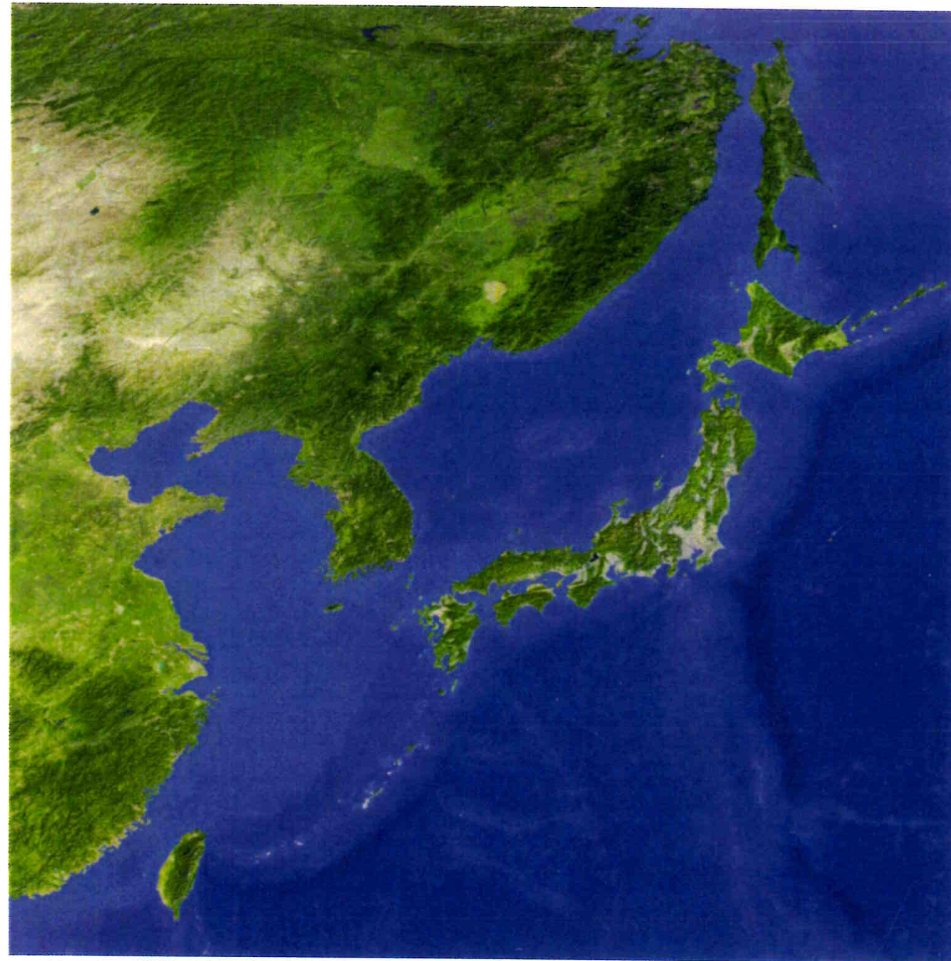
『新・やまと物語』（第8巻）

タイトル

- 第47章 第二期^{きようりつ}共立時代（大^{おほさ}雀^{ざき}命^{のみこと}・宇^う遲^ぢ能^の和^わ紀^き郎^{いらつこ}子）
- 第48章 仁^{にんとく}徳^{とく}天皇
- 第49章 謎^{なぞ}の世紀『五世紀』
- 第50章 装^{そうしよく}飾^し古^こ墳^{ふん}
- 第51章 近^{きん}畿^き地方の古墳
- 第52章 埴^{はに}輪^わ
- 第53章 隠^{かく}された二朝時代の概^{がい}要^{よう}（第一期二朝時代・第二期二朝時代の^{けい}経^い緯^いのあらまし）
- 第54章 乎^{おほ}富^と等^と大^お公^{こう}王^{わう}（後の^{けいたい}繼^{けい}体^{たい}天^{てん}皇^{わう}）の^し出^{しゅつ}自^じについて
- 第55章 雄^{ゆう}略^{りやく}天^{てん}皇^{わう}（「^い共^い治^{しやう}国^{しやう}家^{しやう}」^い「^い共^い治^{しやう}天^{しやう}下^{しやう}」を望^む遺^い詔^{しやう}）
- 第56章 〔天上国九州の天^{けいたい}皇^{わう}〕繼^{けい}体^{たい}天^{てん}皇^{わう}

新・やまと物語 (8)

こ が けい さく
古閑炯作



画像提供：東海大学情報技術センター



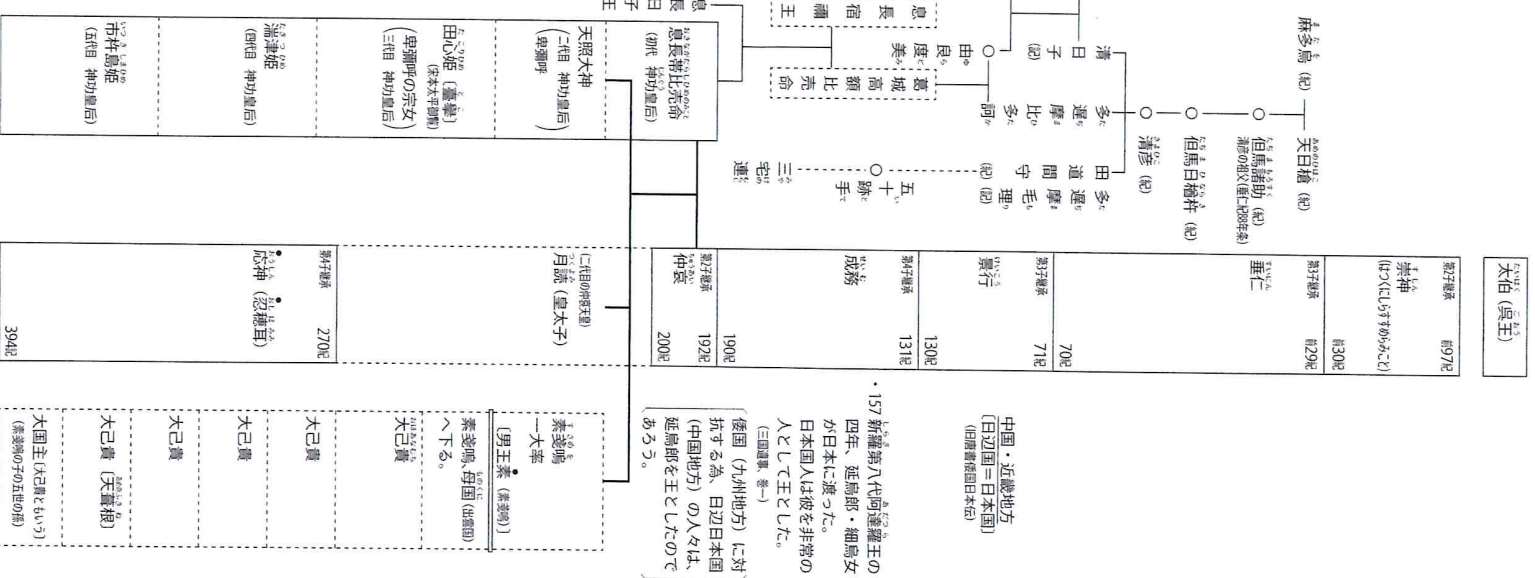
画像提供：東海大学情報技術センター



(拡大映像)

けいふ
系譜

—



- 周の太伯は、弟季歴に位を譲る為、江南に
逃れ、文身所擬して君長となり、吳国を
建国し、
「彼人は自ら太伯の後と云う」と、柳樹悠文・
晋書・梁書に記されている。
前漢の武帝（在位前141～前87年）、閼廬王
を滅ぼす。（史記・南越）
※閼廬王は、実は、太伯の末裔だったので
なろう？
1) 太伯の後、閼廬王をあきらめ、会稽の東
海あたりに九州へ東遷開始か。
秦神農天皇に、箕子唐の百未周（後の魏）中の殷
商神農の地を以て貢国を建国して王となつたか。
倭奴国は、後漢末（220）の板図でいえば、
倭国（北九州・山口地方）の極東界に位置
してゐたであろう。（後漢書倭伝）

- 垂仁天皇の同母弟「**倭彥**」が奪じた時、**殉死**が
か始まった。（崇神紀・垂仁紀）
- 極南界の倭奴国が奉貢朝貢した。（後漢書倭伝）
- 田道間守を常世国（とちまのくに）の蘭麝のことであるう
かへ還わす。
- 橘をを持ち帰った田道間守、**殉死**する。（記・紀）
- 倭国王師升は、生口百六十人を獻じ、謝礼を
受けた。（後漢書倭伝）

- 北九州・山口地方の小領を統べる
神功皇后、明神天皇の御孫韓国の新羅國を征服。
高句麗は、帯方(平壤)の地にまで侵入して高句麗と
呼称するようになったか。
- 倭の女王卑弥呼、狗奴国・男王卑彌呼と素戔
不和。(倭書使人伝)
- 卑彌呼死す。男王(素戔鳴)立つ。
國中服さず、当時、千人衆を殺す。
- 素戔鳴、出雲國(今の近畿地方)へ下る。
「宇宙に君臨せんべからし」と申し渡された。
- 素戔鳴は、中国山脈の山東岳以下に下っていつ
たのたらう。(代記三貫子版生家、参照)
- 神功皇后、晋の武帝永初二年に薨歿。(注)
晋の力が弱まり、高句麗は楽浪郡(平壤)境
たりを併吞。
- 高句麗は、引き続き帯方郡を占拠す。
この頃、高句麗は、馬韓(百濟)・辰韓(新羅)
と名がついたのである。
- この当時、馬韓から百濟へ、辰韓から新羅
と国名が変わったようである。
- 天武天皇の時に、阿蘇峰の火を三輪山に移す。
中興皇太后(孝徳天皇)の平定。朝鮮終結。
- 大和主、今の出雲に新しい出雲国をつくる。
武烈天皇、熊襲に大陣営を造営。
- 近江間土王即位。
近江間土王、男(みづから)水軍を率いて百濟を
討ち、多くの城を落す。(近江土王純敏)
- 高句麗が倭軍を任那加羅まで追撃。(倭書玉録)
倭軍は、帯方の地に至りて侵入して高句麗と
呼ぶたが、大敗、再度大敗。(倭書玉録)
- 倭書七部で、再度大敗。(倭書玉録)



第2表 前300年ころを中心とする朝鮮半島の歴史と日本の歴史との対比 (想像)



次第に明るい色の土器へ変わってゆく。

弥生文化園
・大型の銅鐃が作られるようになる。

[注] ●印は、「扶余系殷民の子孫達の遺物・遺構」と解釈してみたい。

第3表 弥生時代を中心とする時代区分

時代	区分	西暦	出来事	統治者		
				九州	中国	近畿
縄文時代	晩期			縄文人		
弥生時代	前期	前300		当初の弥生人渡来		
		前200	- 前190頃、箕子朝鮮国奪われる。箕子は、南韓の王となる。 - 前180頃、箕子は、北九州・山口地方を領有し、「海中の王」となったか。(「三国志」韓伝)	【箕子達による百余国の時代】		
		前100	- 前104頃、倭人東遷開始か。 - 前97、崇神天皇即位(紀)			
	中期	B.C. A.D.		(倭奴国(極南界))		
		(イ)	57、極南界の倭の奴国、後漢へ朝貢。			
	後期	-100	107、倭の奴国、再び後漢へ朝貢。			
		147 188	倭国大乱			
古墳時代		-200	239、卑彌呼、魏国へ朝貢。 248(?) 卑彌呼死。径百余歩の塚が作られた。	【倭人による30余国の時代】		
		-300		男王素(素戔鳴)を追放。 素、母の根国を建国。 (近畿に古墳出現)		
		-400	(銅剣・銅矛文化圏が、銅鐔文化圏を併合)	(倭人による統一) 出雲国の国譲り (現在の出雲国へ国替え) (銅鐔廃絶)		

・右頁に掲載下さい。
・『新・やまと物語』
第三巻 第3表から
転写して下さい。

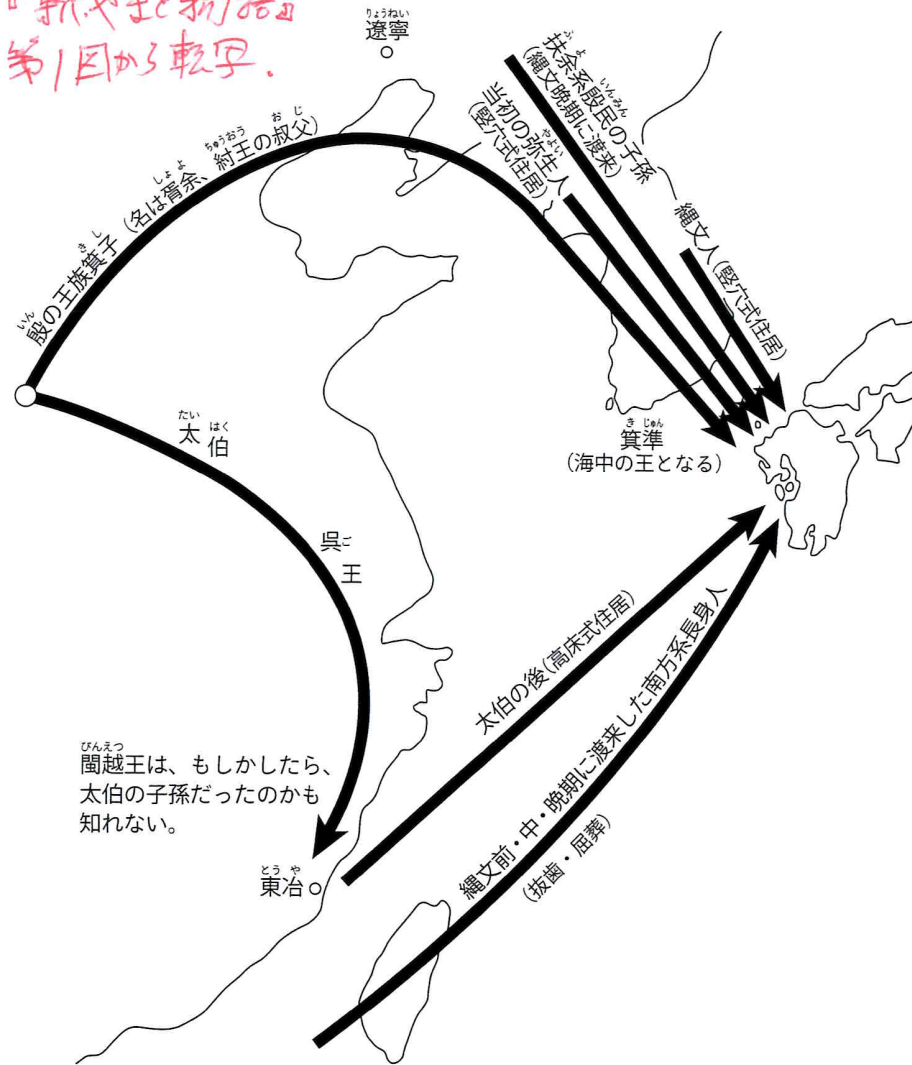
(イ)の位置を、
図)に示して下さい。
(破線)
赤い点線を引き出す

①
近畿地方の高度な文化は、弥生時代末に突然衰退する。
その後、高知・徳島・香川・愛媛・高松・岡山・広島・山口・福岡・佐賀・熊本・大分・長門・豊後・豊前・肥前・肥後・日向・薩摩・大隅・種子島・屋久島・奄美・沖縄の各地方に、それぞれ異なる文化が栄える。

つまり、近畿地方の高度な文化と、次の古墳時代とか、スナリとはつながらない。

〔注〕当表の『時代』および『区分』は、佐賀県教育長、高島忠平氏の見解を基にしている。
(「吉野ヶ里」安本美典、毎日新聞社、156～7頁参照)

・左頁に掲載下さい。
・『新やまと物語』
第1図から転写。



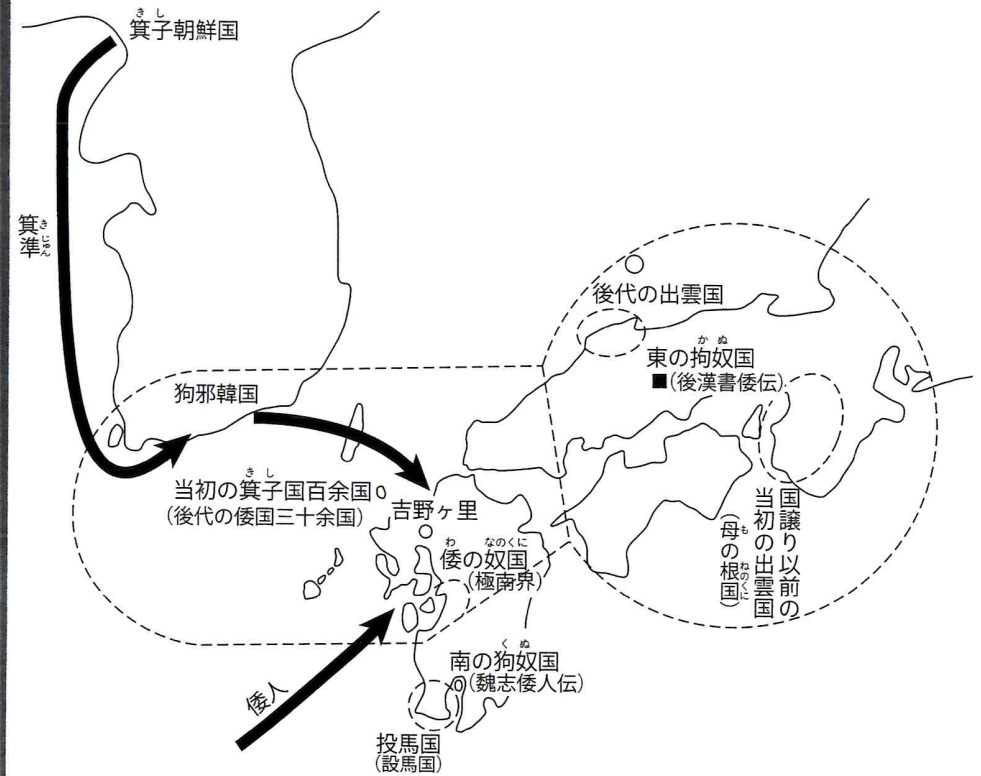
第1図 六つばかりの種族 (想像図)

第3表 弥生時代を中心とする時代区分

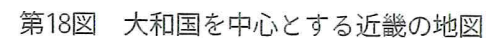
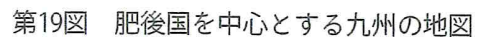
時代	区分	西暦	出来事	統治者		
				九州	中国	近畿
縄文時代	晩期			縄文人		
弥生時代	前期	前300		当初の弥生人渡来		
	前期	前200	- 前190頃、箕子朝鮮国奪われる。箕子は、南韓の王となる。 - 前180頃、箕子は、北九州・山口地方を領有し、「海中の王」となったか。 (『三国志』韓伝)	【箕子達による百余国の時代】		
	中期	前100	- 前104頃、倭人東遷開始か。 - 前97、崇神天皇即位 (紀)	倭奴国 (極南界)		
	後期	B.C. A.D.	57、極南界の倭の奴国、後漢へ朝貢。 107、倭の奴国、再び後漢へ朝貢。 147 } 倭国大乱 188 }	(小銅鐸廃絶)		
古墳時代	前期	-200	239、卑彌呼、魏国へ朝貢。 248(?) 卑彌呼死。径百余歩の塚が作られた。	【倭人による30余国の時代】		
	後期	-300		男王素 (素戔鳴) を追放。素、母の根国を建国。 (近畿に古墳出現)		
		-400	(銅剣・銅矛文化圏が、銅鐸文化圏を併合)	(倭人による統一)		

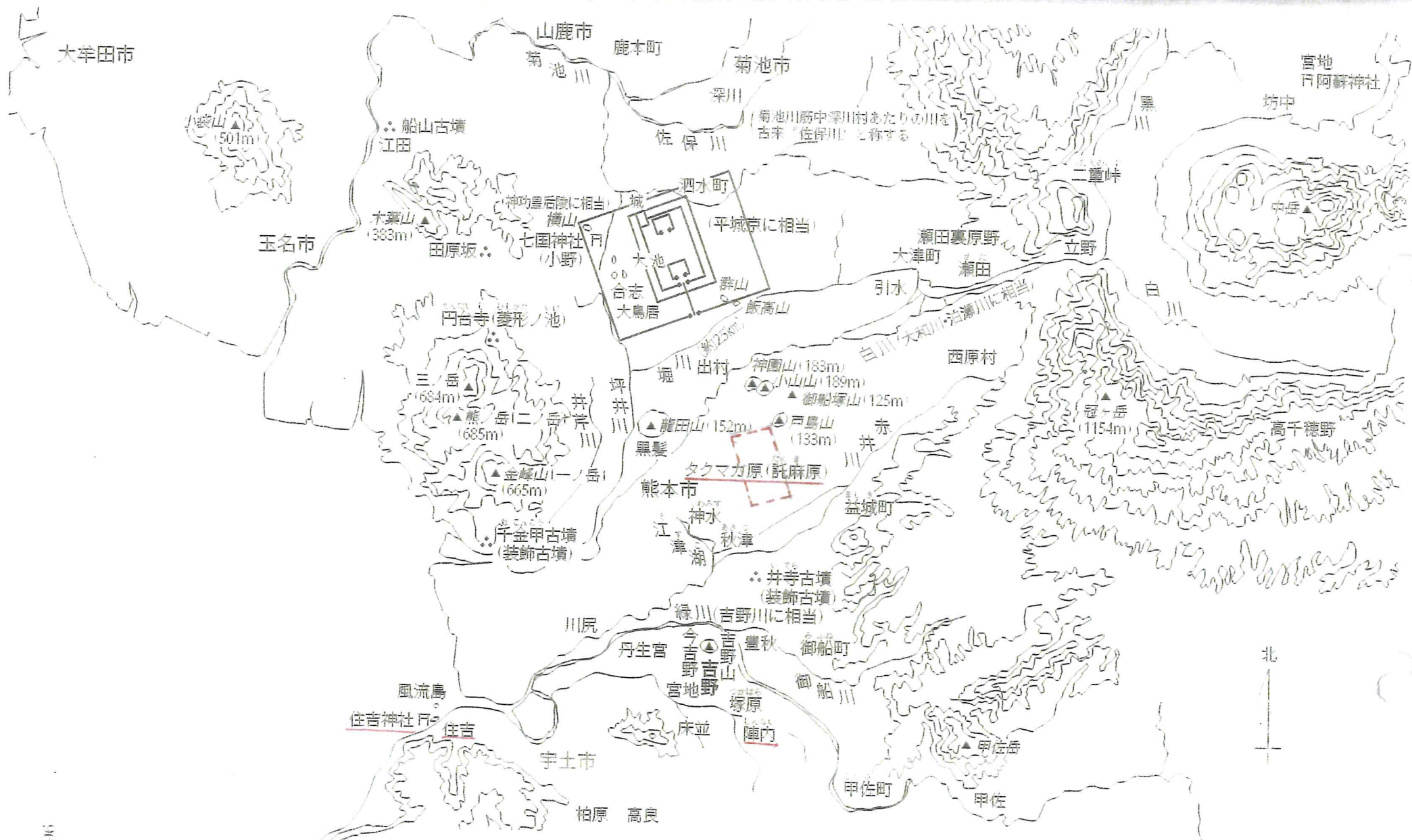
〔注〕当表の『時代』および『区分』は、佐賀県教育長、高島忠平氏の見解を基にしている。
 (『吉野ヶ里』安本美典、毎日新聞社、156〜7頁参照)

- ・ 右頁に掲載
- ・ 『新・やまと物語』 第2冊から転写。



第2図 東西二つの文化圏の対立 (想像図)





第12図 曹魏の洛陽城を模した「邪馬台国の都」想像図

(注)「白川中流域一帯に前方後円墳が無い」ということが注目される。



第13図 邪馬台国の「洛陽城」想像図

- [注] ①曹魏代の宮城（九六城）の城壁には、「十二の宮城門」が設けられていた。また、曹魏の明帝は、後漢代の崇徳殿の故処に「太極殿」を建てた、という。
- ②一方、『日本書紀』皇極天皇四年六月条には、「大極殿」や「十二の通門」の記載がある。
- ③合志原の『大池』『小池』について、「聖徳太子当国に《五ヶ所の池》を穿ち給ひしなりといふ」と言い伝えられている。（『菊池郡誌』熊本県教育会菊池郡支会、名著出版、昭和48年1月発行、377頁〈大池小池〉参照）

※昭和42年6月30日付、国土地理院発行の5万分之1地図「高瀬」「隈府」参照。

新・やまと物語

第^二卷

八

目次

第1巻

第2巻

①『新・やまと物語』の題目

まえがき

序論

この物語の主張

系譜

荒筋

『日本書紀』の記載におけるかくれた約束事

新・やまと物語

第一編 神代〔先史時代〕～応神朝

第一章 天地開闢

第二章 激動の黎明期

第三章 極東地域にみられる各種文化についての考察

第四章 北九州・中国・近畿地方の遺跡が語る激変の時代

第五章 東西二つの文化圏の対立(当初の弥生人と箕子の対立)

第5巻

第6巻

第二十三章 住吉の客人

第二十四章 倭王に拝假す

第二十五章 帰国を延しての倭国での日々

第二十六章 冬至の祭〔新嘗祭〕

第二十七章 倭国の文化

第二十八章 邪馬台国に現出した洛陽城

第二十九章 龍神の鱗

第三十章 相剋

第三十一章 玉匣

第三十二章 東海の島の奇妙な習俗

第三十三章 梯儻の安否をたずねて

第三十四章 日御子の哀しみ・そして死(徑百余歩の塚の内へお隠れになる)

第三十五章 悪阻の儀式(殉葬する者、奴婢百余人)

第三十六章 千餘人も戦死者を出した内乱

第三十七章 天石窟の儀式(年齢と地位と名前を受け継いで出生する襲名の儀式)

第三十八章 女王認知の儀式〔大嘗祭〕

第三十九章 素戔鳴の偉業

第四十章 倭国の女王田心姫

第四十一章 応神天皇(上)

(以下、インターネット)

第3巻

第4巻

第7巻

第8巻

第六章 太伯の後

第七章 倭国創建(会稽の東治から東遷。箕子国内の極南界に倭奴国を建国)

第八章 垂仁天皇(五十七年、極南界の倭奴国、後漢へ朝貢)

第九章 景行天皇(二〇七年、倭奴国、後漢へ朝貢)

第十章 成務天皇(倭国大乱。倭国、北九州・山口地方に三十余国を置く)

第十一章 仲哀天皇

第十二章 神功皇后(息長足姫尊)

第十三章 三國鼎立

第十四章 洛陽の変遷の歴史

第十五章 衛氏朝鮮以後の朝鮮半島の歴史

第十六章 景初三年春

第十七章 魏国への旅立ち

第十八章 洛陽の都

第十九章 帰途

第二十章 単位

第二十一章 倭国北辺の国々

第二十二章 新王城

第四十二章 朝鮮半島の歴史

第四十三章 応神天皇(中)

第四十四章 東の拘奴国壊滅(中国地方平定)

第四十五章 母国『出雲国』の国譲り(近畿地方を譲り受ける)

第四十六章 応神天皇(下)

第二編 繰り返される二朝の慣例(仁徳朝～崇峻朝)

第四十七章 第二期共立時代(大雀命・宇遲能命紀郎子)

第四十八章 仁徳天皇

第四十九章 謎の世紀『五世紀』

第五十章 裝飾古墳

第五十一章 近畿地方の古墳

第五十二章 墳輪

第五十三章 隠された二朝時代の概要(第一期二朝時代・第二期二朝時代の経緯のあらまし)

第五十四章 乎富等大公主(後の継体天皇)の出自について

第五十五章 雄略天皇(「共治国家」「共治天下」を望む遺詔)

第9巻

- 第五十六章 (天上国九州の天皇) 継体天皇
第五十七章 (日辺日本国の天皇) 清寧天皇 (白髮武
廣國押稚日本根子天皇)
第五十八章 飯豊天皇
第五十九章 顕宗天皇 (弘計天皇 (弟))
第六十章 仁賢天皇 (億計天皇 (兄))
第六十一章 武烈天皇 (仁徳系の王統最後の天皇)
第六十二章 時代の圧縮
第六十三章 第一期二朝時代の終焉
第六十四章 第二期二朝時代の幕開け
第六十五章 欽明天皇 (天國排開廣庭天皇)
第六十六章 敏達天皇
第六十七章 用明天皇
第六十八章 崇峻天皇 (朕が嫌しとおもふ所の人を断
らむ)

第三編 日本の歴史改編、そしてその後 (推古朝)

現代

- 第六十九章 第三期二朝時代 (天上国の推古天皇・日
辺日本国の等与刀弥々大王)
第七十章 推古朝の寺院・仏像

第10巻

第11巻

第12巻

- 第七十一章 阿蘇山
第七十二章 隋の文帝、所司をして倭国の風俗を訪わ
しむ
第七十三章 国に二の君非ず
第七十四章 皇太子麁戸豊聰耳皇子
第七十五章 金人の夢告
第七十六章 太子の苦悩
第七十七章 聖徳太子の薨去
第七十八章 蘇我馬子の死、そして推古天皇の崩御
第七十九章 舒明天皇
第八十章 皇極天皇
第八十一章 孝徳天皇
第八十二章 斉明天皇
第八十三章 高市天皇 (舒明天皇の重祚)
第八十四章 天智天皇
第八十五章 壬申乱
第八十六章 宗像神社
第八十七章 天武天皇 (上)
第八十八章 新城 (平城宮)
第八十九章 天武天皇 (下)
第九十章 持統天皇

第13巻

- 第九十一章 文武天皇
第九十二章 元明天皇
第九十三章 奈良時代
第九十四章 平安時代 (上)
第九十五章 小野小町
第九十六章 平安時代 (下)
第九十七章 南北朝時代 (二朝時代)
第九十八章 戦国時代
第九十九章 近世 (安土・桃山・江戸時代)
第一百章 現代及び未来
あとがき

②『新・やまと物語』第3巻の目録

新・やまと物語

- 第二編 繰り返される二朝の慣例 (仁徳朝・崇峻朝)
第四十七章 第二期共立時代 (大雀命・宇遲能 and 紀
郎子)
第四十八章 仁徳天皇

『図・表・写真図版索引』

第五十六章 天上国九州の天皇 継体天皇

追加資料
『千支表』

頭を揃える (第8巻) 17